

令和3年度

第2回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和3年4月22日(木)  
開会9時5分 閉会11時2分

場 所 教育委員室

令和3年度  
第2回大分県教育委員会

**【議 事】**

(1) 議 案

第1号議案 大分県立高等特別支援学校（仮称）の校名候補等について

第2号議案 大分県社会教育委員の委嘱について

(2) 報 告

① 令和2年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について

② 令和3年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について

③ 令和3年度大分県立高等学校入学者選抜結果について

④ 大分県グローバル人材育成推進プラン第3ステージについて

(3) 協 議

① 令和4年度（令和3年度実施）教員採用選考試験実施要項（案）等  
について

(4) その他

## 【内 容】

### 1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	高 鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
事務局	教育次長	渡 辺 登
	教育次長	久保田 圭 二
	教育次長	米 持 武 彦
	参事監兼特別支援教育課長	友 成 洋
	教育改革・企画課長	重 親 龍 志
	教育人事課長	大 和 孝 司
	高校教育課長	三 浦 一 雄
	社会教育課長	後 藤 秀 徳
	教育改革・企画課 主幹 (総括)	門 野 秀 一
	教育改革・企画課 主査	末 松 敬 雅

### 2 傍聴人

2 名

## 開会・点呼

(工藤教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、議題ごとに、関係課長のみ入室しますので、よろしくお願いします。

(工藤教育長)

それでは、ただ今から、令和3年度第2回教育委員会会議を開催します。

## 署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名については、鈴木委員にお願いします。

## 会期の決定

(工藤教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は10時40分を予定していますので、よろしくお願いします。

## 議 事

(工藤教育長)

始めに、会議は原則として公開することとなっておりますが、第2号議案及び協議①は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

第2号議案及び協議①は、非公開といたします。

(工藤教育長)

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

## 【議 案】

### 第1号議案 大分県立高等特別支援学校（仮称）の校名候補等について

（2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室）

(工藤教育長)

それでは、第1号議案「大分県立高等特別支援学校（仮称）の校名候補等について」提案しますので、特別支援教育課長から説明をしてください。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

「大分県立高等特別支援学校（仮称）の校名候補等について」説明します。

資料1ページをご覧ください。

令和4年4月に開校を予定している大分県立高等特別支援学校（仮称）を設置することに伴い、校名候補、設置学科、学級数、位置及び設置時期について、議案を提出します。

資料2ページをご覧ください。

校名候補については、「大分県立上野の森高等支援学校」「大分県立桜の森高等支援学校」「大分県立令豊高等支援学校」の3つから1つを選抜していただきます。

資料3ページは、令和3年2月2日に行われた第1回開校支援委員会で推薦いただいた際の校名と応募者の理由、開校支援委員会委員の推薦理由を示したものです。

「上野の森」は、県民に親しまれ地域になじみがある、覚えやすい、響きが良いなどの理由でした。また、「森」は人が育てる意味の「きへんにつち」の「杜」の案もありました。

「桜の森」は、明るいイメージがある、希望が感じられる、今までにないなどの理由でした。また、「桜」は、よりわかりやすく平仮名の「さくら」でも良いとのことでした。

「令豊」は、時代に合致している、豊後の「豊」と豊かな人材の育成をイメージできるなどの理由でした。

校名候補を1つに絞った後、「森（さんぼんぎのもり）」を「杜（きへんにつちのもり）」とするか、平仮名で表記する部分があるか、についてご検討をお願いします。

続いて、設置する学科名、学級数について、説明します。

資料4ページをご覧ください。

設置学科の名称は「産業技術科」を、学級数は「4学級」を提案します。学科名は、様々な産業で活躍する人材を育成し、就労するための技術を習得できる専門学科という意味があります。「産業」は、特別支援学校の高等部の学科を定める省令にある専門学科の一つ「『産業』一般に関する学科」から、また「技術」は、新設校が設定する専門教科「家政」「流通・サービス」「福祉」に共通した目標の「『技術』を身につける」から、2文字ずつを取ったものです。

学級数は、中学校や特別支援学校中学部を卒業した、知的障がいがあり一般就労を希望する生徒数から、4学級の設定が必要と考えております。

戻って、資料2ページをご覧ください。

位置については、現在整備を進めている県立聾学校の敷地内とし、入学者選考等の開校に係る準備を円滑にするため、令和3年7月1日に設置したいと考えております。

校名候補については、令和3年第2回定例県議会に上程する予定です。

以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見なし)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案については、多数決を取ります。

まず、校名候補を決定したいと思います。

上野の森高等支援学校がよいと思う方、挙手をお願いします。

【挙手、1名】

桜の森高等支援学校がよいと思う方、挙手をお願いします。

【挙手、3名】

令豊高等支援学校がよいと思う方、挙手をお願いします。

【挙手、1名】

「桜の森」が3名の方ということで、「桜の森」に決定しますがよろしいですか。

(各委員)

はい。

(工藤教育長)

次に、表記を決定したいと思います。説明で、漢字の「桜」と平仮名の「さくら」「森」は、「森」と「杜」とありましたが、この場で決定してよいですか。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

はい。この場で候補として決定していただきたいと思います。

(高橋委員)

「桜の杜」となる組み合わせでも可能ですか。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

その組み合わせでも可能です。

(工藤教育長)

そうすると「桜の森」「さくらの杜」「桜の杜」と候補が3つになるということでもよろしいですか。全部平仮名も候補になりますか。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

「森」を平仮名表記にする意見はありませんでした。

(高橋委員)

私は、土に木を植えてどんどん大きくなることを生徒が成長する姿に重ねて「杜」という字がよいと思いました。

(岩武委員)

私は、桜を象徴としてこの学校の生徒をみんなで育てていくという意味で「杜」がよいと思います。

(工藤教育長)

では、「桜」を漢字か平仮名か、「森」を「森」か「杜」か、それぞれで決める方法もありますが、議案にある2つの候補に絞って候補を決めてよいですか。

(林委員)

高橋委員から「桜の杜」という意見もあったので、「桜」をどちらにするか、「森」をどちらにするかで決めるのがよいと思います。

(工藤教育長)

では、その案で決を採ります。「桜」は漢字がよいと思う方は、挙手をお願いします。

**【挙手、1名】**

平仮名がよいと思う方は、挙手をお願いします。

**【挙手、4名】**

「桜」は平仮名（「さくら」）とします。

「森」がよいと思う方は、挙手をお願いします。

【挙手、0名】

「杜」がよいと思う方は、挙手をお願いします。

【挙手、5名】

「杜」とします。

それでは、校名の表記は「さくらの杜」と決定しますがよろしいですか。

(各委員)

はい。

(工藤教育長)

次に、「設置学科」「学級数」「設置位置」「設置時期」の承認について、お諮りします。承認をされる委員は挙手をお願いします。

【挙手、5名】

それでは、「設置学科」「学級数」「設置位置」「設置時期」については、原案のとおり承認します。

## 【報 告】

### ① 令和2年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(工藤教育長)

次に、報告第1号「令和2年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について」特別支援教育課長から説明をしてください。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

令和3年3月卒業の特別支援学校高等部生徒の進路決定状況及び一般就労率について、報告します。

資料をご覧ください。まず上段の【資料1】についてです。

県内の特別支援学校17校（大分大学教育学部附属特別支援学校も含む）の卒業生全体に占める、進路先別の割合を示しています。

昨年度は、17校で計191名の生徒が卒業をしました。進学者は2名で、盲学校専攻科に進学をしております。また、企業等への就職は、45名でした。

表の右端「未定」の欄をご覧ください。令和元年度は、進路先未定者が、5名おりましたが、令和2年度は、早期からの対応を行う等の取組を行ったことにより、未定者は0名となっております。

次に、左下の【資料2】をご覧ください。

【資料2】は、知的障がい特別支援学校卒業生のうち、一般就労した生徒の割



合を示しています。

知的障がい特別支援学校卒業生の企業等への就労者数を中央に示していますが、44名でした。就労先としては、接客・清掃・小売等のサービス業に14名（32%）、農業に7名（16%）、部品の組み立て等の製造業に6名（14%）、病院や介護施設・保育所等の業務や介護補助に6名（14%）等となっております。

就労者数については前年度比で7名の増加をしました。また、一般就労率については、前年度比で6.2ポイント増加し、26.2%でした。

続いて、右下の【資料3】をご覧ください。

こちらは、一般就労を希望した知的障がい特別支援学校生徒のうち、希望を達成できた生徒の割合を示しています。

一般就労を希望した生徒の希望就労率は、昨年度比で30.1ポイント増加し、89.8%でした。

一方で、一般就労希望率は、昨年度比で5ポイント減少し、29%でした。今後は、一般就労を希望する生徒を増やしていくための取組を行っていきたいと思います。

今年度は、一般就労率のさらなる向上を目指し、ジョブ・コンダクター6名を配置するなど、「就労達成促進事業」として新規事業を立ち上げ、高等部の教育課程の改善や、一般就労への保護者の不安を払拭するような情報提供等を含めた取組をしっかりと進めていきたいと考えております。

以上です。

（工藤教育長）

ご質問・ご意見はありませんか。

（高橋委員）

最後のご説明があったところで、一般就労希望率が5ポイント下がっていることについて、下がった要因というのは、どのようなことがあるのですか。

（友成参事監兼特別支援教育課長）

私たちの分析では、3つの原因を考えています。

一つ目は、高等部1年生あるいは中学部から、企業の業務とのマッチングを系統的に今後やっていく必要があるのではないかとということです。

二つ目は、就労をするために必要なスキルが本当に教育課程に位置付けられているか、付けたい力という視点から見直しをする必要があるのではないかとということです。

三つ目は、保護者と生徒本人が就労に対しての不安というのが非常に強いところがあります。今後十分に啓発して理解を深めていくことが必要であり、まだ十分に改善していないことが希望率低下の原因ではないかと考えております。

(高橋委員)

企業とのやりとりで嫌な思いをしたというような事例があったら、商工会議所等を通じて企業にそのような事例があることをお伝えできるので、もしあれば教えていただきたいなと思います。

(岩崎委員)

高橋委員の質問に関連して、一般就労の希望就労達成率が9割近かったというのは大きな改善で、大変喜ばしいことです。課題としてあるのは、一般就労を希望する人を増やしたいということだと思います。

商工会議所の会頭等は、特別支援学校生徒の一般就労に向けて協力するという姿勢を示してくれています。できるだけ一般就労の希望率の向上を図っていただいて、特別支援学校に通う生徒が一人でも多く仕事に就いていただきたいと思っています。個々の生徒により事情は異なると思いますが、できるだけ多くの生徒が一般就労を希望するよう目指すことは悪いことではないと思います。よろしくをお願いします。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

ジョブ・コンダクター等を今年度配置しておりますので、十分に企業と連携しながら進めていきたいと思っています。

(林委員)

【資料1】の進路先で「社会福祉施設・医療機関」の中の「就労移行支援」「就労継続支援B型」が多くなっていますが、ここに行かれた生徒さんというのは、ここにずっと勤めるのか、あるいは就職につなげるため、更なる訓練を進めていくことになるのでしょうか。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

就労継続支援B型からA型に移っていくというケースは少ないという現状があると伺っております。福祉保健部の方でも課題と捉えているようで、今後、A型へ移っていくような取組を積極的にやっていきたいと伺っておりますので、福祉保健部とも引き続き連携しながら進めていきたいと思っています。

(岩武委員)

【資料3】を見ると、特別支援学校卒業生の就労率については、新型コロナウイルス感染症による影響というのはあまりないと考えてよいですか。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

昨年度、1名が新型コロナウイルス感染症の関係で離職をしたというケースがありましたが、すぐに違う仕事が見つかりました。今回、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と関わるような仕事については、少し慎重に進めていったケー

スはありますが、結果として、希望した方は就職できました。新型コロナウイルス感染症の影響が全くないとは言えなかったのですが、就労を希望する方は希望がなかったという結果になっております。

(鈴木委員)

私の会社においても、特別支援学校の生徒さんの職場体験を受け入れています。4名くらいを受け入れてきましたが、「農業はつらいから嫌だ。」「保護者の方が勧めない。」「先輩が勤めている企業に行きたい。」というような意見を聞きました。同じ学校の先輩や同じような特徴を持った方が勤めていると、受け入れてもらえるという安心感みたいなものがあるとおっしゃっていました。マッチングがうまくいってないことや、受け入れる企業側の体制が整ってないこともあるのではないかと思います。

最近では、特別支援学校生徒の就職支援をする方の企業等への訪問が少なくなった感じがしており、農福連携等の取組もあるので、もう少し活用されてもいいのではないかと思います。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

今年度、新たに配置したジョブ・コンダクターや企業と十分に連携しながら、今後、取組を進めていきたいと思っております。

## **② 令和3年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について**

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(工藤教育長)

次に、報告第2号「令和3年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について」特別支援教育課長から説明をしてください。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

「令和3年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について」報告します。

資料左側の「1 入学者選考結果」をご覧ください。今年度の入学者選考結果を示しています。

まず、特別支援学校の入学者選考では、法令に定める障がいの程度であることを志願条件としており、この条件を満たす生徒は合格とすることを基本としています。

前年度3月にそれぞれの特別支援学校で第一次及び第二次の入学者選考を実施し、この表に示したとおり、16校全体で190名の生徒が合格しました。

障がい種別の選考状況を見ると、学校番号6番から16番までの知的障がい特

別支援学校の受検者・合格者が多く、11校全体で154名、全体の81.1%となります。

中でも、学校番号6番の宇佐支援学校、11番の新生支援学校、12番の大分支援学校の受検者・合格者が、他校に比べて多くなっています。この3校につきましては、高等部に在籍する生徒数が多い状況が続いています。

続いて、資料右側上段の「2 特別支援学校高等部（専攻科除く）への入学者数推移」をご覧ください。

この表は、10年間の特別支援学校高等部本科への入学者数の推移を示しています。

本年度の本科への入学者数は186名で、前年度と比較すると14名減になります。

9年前の平成24年度から見ると、この10年間で入学者は約1.18倍に増加しています。

下段の「3 知的障がい特別支援学校高等部への入学者数推移」は、知的障がい特別支援学校高等部11校の入学者数推移とその内訳を示しています。

今年度の154名の入学者の内訳については、特別支援学校中学部からの進学生徒が96名であり、例年100名前後の生徒が入学しています。

その下からは、中学校からの入学者となります。

中学校の特別支援学級から入学した生徒が54名であり、特別支援学級の在籍生徒総数の48.6%となっています。割合としてはここ数年減少傾向にありますが、依然として、特別支援学級に在籍する生徒の約5割から6割程度の生徒が特別支援学校に進学している状況です。

また、中学校の通常の学級から進学した生徒については、前年度と同人数となっています。

以上のように、中学校からの入学者については、今年度は昨年度よりも12名減少していますが、例年50～80名程度の生徒が特別支援学校に進学をしている状況です。

これは、一人一人の障がいの状態に応じたきめ細かな教育が行われることへの期待が高まっているためと考えております。

報告は以上です。

(工藤教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見なし)

### ③ 令和3年度大分県立高等学校入学者選抜結果について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(工藤教育長)

次に、報告第3号「令和3年度大分県立高等学校入学者選抜結果について」高校教育課長から説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

「令和3年度大分県立高等学校入学者選抜実施結果について」報告します。

まず、資料1ページ上の〔全日制〕の表をご覧ください。

表の一番上の欄が令和3年度入試における結果であり、比較として、その下の欄に令和2年度入試の結果を示しています。また、項目としては、入学定員、推薦入試・連携型入試、新しく実施した帰国・外国人生徒特別入試、一次入試、二次入試の順に、人数をまとめています。

令和3年度の欄を横にご覧ください。全体の入学定員6,800人に対し、最終合格者数は6,375人となりました。合格者数が入学定員に満たない欠員の人数は430人、学校数は23校でした。

帰国・外国人生徒特別入試では、3人の志願者に対し3人全員が合格しました。また、新型コロナウイルス感染症に係る追検査を実施し、推薦入試、一次入試においてそれぞれ合格者を決定しています。

次に、資料1ページ下の〔定時制〕の表をご覧ください。

全体の入学定員440人に対し、( )内の数は爽風館高校の秋季募集人数を除いた数を示しています。最終合格者数は144人でした。

次に、資料2ページをご覧ください。

学校・学科ごとの入学定員、合格者、欠員の状況を示しています。校名の左に「☆」印を示した学校は、「地域の高校魅力化・特色化推進事業」の指定校17校です。このうち、久住高原農業高校の全国募集では、平成31年度は1人、令和2年度は8人、そして令和3年度は隣接枠を含めて13人と着実に増加しております。また、玖珠美山高校では、コミュニティ・スクールの取組も6年となり、地域と協働した学校運営のもと、欠員が大幅に減少しました。さらに、中津南高校耶馬溪校でも地域の中学校卒業生数が減少する中、自校のCM作りを行うなどの取組の成果も出ております。

次に、資料3ページをご覧ください。

これは大学科ごとの定員の充足率です。入学定員に満たない人数(欠員数)が430人と、昨年度に比べて75人増加したこともあり、多くの学科で充足率が低下している中、農業科が2ポイントの増加となっています。

大分市も含め、志願者数が減少するなど、地域の高校を中心に厳しい状態があります。中学校卒業生数と受験者数の差から、大分工業高等専門学校に加え、県内私立高校等の進路先を選択した中学生が増加傾向にあることがうかがわれますが、5月実施予定の、中学校卒業生の進路先調査の結果をまとめ、詳細に分析し

たいと考えております。今後も実態把握に努め、各高校の効果的な魅力発信とともに、地域や中学校との更なる連携強化を図ることにより、定員確保に努めていきます。

続いて、資料4ページの「令和3年度 大分県立高等学校第一次入学者選抜学力検査結果」について報告します。上の表「学力検査点等の状況」をご覧ください。

各教科の平均点、最高点、最低点を教科ごとに示しています。全ての教科とも60点満点です。

令和3年度の結果は、全体の平均点が157.5点、最高点が293点、最低点が14点となっております。

平均点については、下に参考として示した、過去5年間の平均点より高くなっています。

その下の表「教科別学力検査点の分布状況」をご覧ください。これは、各教科の分布状況を示したものです。いずれの教科も正規分布に近い形になっております。特徴としては、社会と理科で50点以上が約14%と他教科に比べ高くなっていることが挙げられます。結果の詳しい分析は今後行っていきますが、中学校と高校の連携の推進につなげていきます。

資料5ページをご覧ください。「学力検査合計点の分布状況」となっています。

出題に際しては、各教科の目標に即して適切となるように努めており、基礎的・基本的な学習の成果をみるとともに、思考力、判断力、表現力等の学力が十分に測れるよう、問題を工夫しております。

報告は、以上です。

(工藤教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

各学校の取組があまり見られず、もう少し中学生の目線に合せた情報の発信をするべきではないかと思っています。中学3年生の息子が学校で紙の資料などをもらって来るのですが、ほとんど見ません。見ているものは、スマートフォンでのYouTubeです。他県では、学校を紹介する動画を作っているところが意外とあって、子どもたちの興味を引くよう作り込んでいる動画が多いです。大分県の今までの学校紹介は、クラシック音楽の使用や、おとなしめのトーンの内레이션ンが多く、堅苦しい感じを受けました。他県の高校の紹介動画を見ると、明るい音楽の使用や、声優さんによる聞きとりやすいナレーションになっていました。

一方で、高校に進学した先輩が出身の中学校に来て紹介するような場合は、中学生の興味を引くようです。

また、調べる手段はスマートフォンですので、生活圈とは違う地域の学校などを調べたりすることもあり、「その学校には通学できないよ。」という話をしています。自分が住んでいる地域にどのような高校があって、その高校がどのよう

な特色を持っているかということも中学3年生になってもわかっていないのは問題があると思っています。私から、特色のある高校の資料を子どもに見せたりしますが、なかなか紙の資料に興味を示しません。情報発信をうまく行っている他県の取組等を参考にしてみたらよいのではないかと思います。

(三浦高校教育課長)

本年度から一人一台端末という環境になりますので、効果的な学校の紹介ができるよう、中学校の方にも情報を発信するという形で努力したいと思います。

(重親教育改革・企画課長)

大分県教育委員会においても、「教育庁チャンネル」をYouTubeの中で開設しているところで、魅力ある高校の取組をさらに発信していきたいと考えています。ご指摘を踏まえて、よりアピールができる内容にしていきたいと思います。

(工藤教育長)

現在、学校のホームページに紹介動画などを掲載しているところはありますか。

(三浦高校教育課長)

写真などはありますが動画はないと思います。

(工藤教育長)

今年、それなりのものを作ってYouTubeで発信するなど、出来る学校はあるのではないですか。情報科学高校などは、一番先に取り組んでほしいと思います。教育デジタル改革室と話をして、すぐに何校か立ち上げてみたらよいのではないですか。特に、欠員が生じている学校はすぐに取り組んでほしいと思います。そんなにコストがかかる話でもなく、既に個人で行っている例も多くあると思うので、学校に工夫してもらって、しっかりアピールをした方がよいと思います。中津南高校耶馬溪校が作成したCMのような完成度までとはいかなくても、動画作成をやりたいと思う生徒も結構いるのではないのでしょうか。学校が認めて作成するとなれば、生徒は頑張るのではないかと思います。

(三浦高校教育課長)

ご指摘いただいたことを踏まえて考えていきます。

(林委員)

令和3年度の県立高校全体の欠員数は430人ということですが、どのように受け止めていますか。また、県外の高校や、県内の私立高校、高専（大分工業高等専門学校）などとの競争になってくると思いますが、どのように考えていますか。

(三浦高校教育課長)

県立高校の定員を策定する際は、中学3年生の人数、公立学校と私立学校の生徒数とのバランス等を勘案しております。県外の高校や県内の私立高校に進学をする生徒が結果的に定員以上に入っている部分もあるかもしれません。そのような要因で欠員が生じているということは否めないと思います。

(高橋委員)

定員の減で心配となることですが、欠員により、1学級あたりの人数が20人や30人まで減っていくとクラス減になる可能性があると思います。地域の方々がそのことを知ったときには廃校寸前の状況になっているのではないかと考えており、PTAや自治会の方と学校の職員が懇談をする場を持っていただいて、学校の取組内容を地域に発信するということが必要ではないかと思っています。地域振興を図る上で、子どもがいなくなるということは地場の打撃になりますので、地域内での交流も考えていただきたいと思っています。

(三浦高校教育課長)

「地域の高校魅力化・特色化推進事業」においても、コンソーシアムを作り、地域の中に入って話をしながら学校の魅力を伝えるということや、地域からのニーズもキャッチしながら学校の中で何が必要かということも考えていきます。また、総論で地域に子どもを残したいというだけでなく、保護者自身が自分の子どもをこの学校に入れたいと思うような学校づくりの方向も事業の中でしっかり伝えていきたいと思っています。

(高橋委員)

保護者が目指している高校がどのようなものであるか聞き出すことが、魅力の発信に繋がると 생각합니다。生徒数が減っている具体の数について、地域の方はあまり知らないと思いますので、そのような情報も発信した方がいいのではないかと思います。よろしくお願いします。

(岩武委員)

今回の説明を聞いてショックだったのですが、「地域の高校魅力化・特色化推進事業」の指定を受けている学校が軒並み定員割れをしているということでした。定員確保のためにどのようにして魅力を作っていくかということでスタートした事業だと思うのですが、定員割れの状態が厳しくなっている学校もあるようです。

このことから、県教育委員会が進めようとしている事業の方向性と子どもたちや保護者のニーズが合致しているのかどうかをよく考えた方がいいと思います。職員たちの価値観で学校づくりを進めすぎてしまうと、すれ違いが起きてしまうと思いますので、子どもたちや保護者がどのような学校を求めているのかということをよく考えた方がいいと思います。



今年、東明高校の入学者が増えています。昨年が600人台で、今年は700人を超えており、60人ぐらい増えているようです。その原因がどのようなことにあるのかはわかりませんが、原点に立ち返って、各県立高校が、どのようにあるべきなのかということのを改めて考えた方がいいと思います。

特に私立学校は生徒数の確保に必死ですので、宣伝やオープンキャンパスの実施方法、スクールガイドなどに、かなりのお金をかけて、どのような言葉で語りかけたら中学生にはわかりやすいかということを考えてやっています。来年に向けて、学校のホームページの構成も含めて、もう一回みんなですっかり頑張ることができるかというのではないかと思います。

(工藤教育長)

現在、各市町村を訪問して、「今後10年間で、1学年2,000人の生徒数が減ります。それぞれの高校が存続できるかどうか瀬戸際になっています。」ということのを首長や教育長に話しています。また、「各高校については、当然、いろんな工夫をして頑張っていますが、それだけでやっていけるという状況ではなく、地域の方にも是非ご協力をお願いします。」ということも話しています。

玖珠町での話で、玖珠美山高校については、この3年間大きな欠員数が生じていたのが、今年度は7人の欠員にとどまった分析として、公営塾である「玖珠志学塾」という高校生をサポートする体制を作ったことと、地域が協議会の中で学校を身近な問題として考える場を作っているということのを聞きました。「玖珠志学塾」で真剣に鍛えることで、日田の高校に進学しようとしていた生徒の相当数が玖珠にとどまった結果とのことでした。

これから先は、もっと地域と一緒にスクラムを組んでやらないと、子どもたちは憧れの方が優先され、地域から出てしまうということになってしまいます。

玖珠美山高校については、農業系の学科も含めて定員を充足してきたというのは本当に成果が上がっていることだと思います。引き続き、現在の取組を継続してほしい旨を玖珠町、九重町の両町長と教育長をお願いしてきたところで、地道にしっかり地域とタッグを組むという体制を作れないと、総論賛成各論反対の状況がそのまま出てしまうのではないかと思います。

逆に、日田市の方は大変なショックを受けていました。日田市を訪問した際に、このような状況の中、県立高校3校の維持を考えるのであれば、相当踏ん張らないと難しい旨の話を市長と教育長にしてきました。

どこかの学校に子どもたちは進学していますので、それが公立でなくなるということは、それだけ魅力がなくなっているということにつながるわけです。さらにしっかり考えていかなければいけないということで、高校教育課の中で議論を立ち上げているところです。しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

#### ④ 大分県グローバル人材育成推進プラン第3ステージについて

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(工藤教育長)

次に、報告第4号「大分県グローバル人材育成推進プラン第3ステージについて」高校教育課長から説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

「大分県グローバル人材育成推進プラン第3ステージについて」説明します。県教育委員会では、平成26年に策定した「大分県グローバル人材育成推進プラン」に基づき、子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働して未来を切り拓いていく上で必要な「5つの力の総合力」の育成に取り組んできました。

この度、平成30年度から令和2年度までの「大分県グローバル人材育成推進プラン第2ステージ」が終了したこと受け、これまでの成果と課題を分析・検証し、令和3年度から令和6年度までに取り組む内容を「第3ステージ」として新たに決めました。

ご覧いただいている資料1枚ものが概要、別冊の冊子が「第3ステージ」の本体です。ここで、「第2ステージ」の取組の一部を動画にまとめておりますので、ご覧ください。

##### 【動画による取組の紹介（3分）】

それでは、お手元の概要をもとに説明します。中段にありますとおり、「第2ステージ」の取組を通して、大分県長期教育計画における目標指標の数値は上がっており、「5つの力の総合力」の育成は着実に進んでいると分析しておりますが、挑戦意欲や英語力に係る指標の数値は低い状態が続いており、更なる取組が必要です。

そこで、概要の下段にありますとおり、「第3ステージ」では、基本方針を「第2ステージ」の継続・充実とし、子どもたちがリアルとバーチャルを問わず世界とつながる機会を拡大します。また、重点ポイントを「挑戦意欲等を喚起する取組の拡大」と「小中高を通じた英語4技能の強化」に置き、各高校におけるグローバル人材の育成に向けた取組や民間の英語4技能テストを活用した授業改善等を推進します。

今後も、「大分県グローバル人材育成推進プラン第3ステージ」に基づき、「5つの力の総合力」の育成に取り組んでいきます。

報告は以上です。

(工藤教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

県内の生徒が取得している TOEIC スコアの中で、一番高いのは何点ですか。

(三浦高校教育課長)

調査をしていないため、わかりません。

(高橋委員)

スタンフォード大学遠隔講座の中で、シリコンバレーの起業家が登場するようですが、どのような専門内容を生徒に教えていますか。マーケティングなどについても教えていたようですが、専門的な用語については TOEIC の力がないと理解が難しいのではないかと思います。

(三浦高校教育課長)

スタンフォード大学遠隔講座については、教育とジェンダー、環境と健康、議論の技術、更には SDGs や世界の諸問題の解決策など、画面上でデータを基に論理的に考察したり、発表したりする授業構造となっています。

(高橋委員)

是非 TOEIC の力も養って欲しいと思います。海外に出た時に、どれ位のスコアを持っているか聞かれることもありますし、これから必要な力だと思います。

(三浦高校教育課長)

TOEIC にかかわらず TOEFL、英検、GTEC など、様々な指標があります。現在は CEFR の 4 技能に関する指標が世界的になっているため、CEFR の指標を活用しながら、総合的に英語力を育成していきます。

(岩武委員)

新規で立ち上げるグローバル・ラーニング・ハイスクール 5 校は、どの地域の学校を指定することを想定していますか。また、英語 4 技能の強化については、どの程度の力を生徒に身に付けさせることを目標としていますか。

(三浦高校教育課長)

国際的な取組を進めている学校から 5 校を選んでいく方向性です。

(岩武委員)

様々な事業をどのように各学校に振り分けていくのか知りたいと思い質問しました。大分市内の学校を中心に進めるということはないのですね。

(三浦高校教育課長)

全県的に取り組みます。グローバルリーダー育成塾も全県から生徒が参加して

おり、昨年度は、玖珠美山高校の生徒が代表挨拶をしました。

(岩武委員)

英語4技能の強化については、いかがですか。

(三浦高校教育課長)

英語の4技能については、1つ1つの技能だけでなく、4技能を連携させて高めていくことが大切です。今年度、4技能の認定テストを県独自で実施しますが、まずは現場の教職員に生徒の英語力が4技能レベルでどの程度あるのかを把握してもらいます。そして、テストの結果に基づいて、どのように4技能を指導すべきかについて、教職員を対象に研修を行います。

(岩武委員)

4技能の向上は当然必要ですが、県の事業である以上、対象となった子どもたちにどこまでの力をつけるかについての目標設定が必要だと思います。

(三浦高校教育課長)

CEFR A2以上の高校生のパーセンテージについて、大分県は全国平均を下回っています。そこで、今後は全国平均を上回り、50%以上の高校生がCEFR A2以上の英語力を持つことを目標として設定しています。

(岩武委員)

CEFR A2は英検ではどの程度ですか。

(三浦高校教育課長)

準2級です。CEFR A2以上が、全国平均は43%程度、大分県平均は40%を少し超えた程度です。

(岩武委員)

わかりました。

(鈴木委員)

学力が高い学校を想定している気がしますが、日本人は、中学・高校・大学と英語を勉強してもほとんど話すことができません。その理由として、外国の方に対して積極的に話しかけることができない、相手の文化がわからない、自分の発音に自信が持てずに緊張してしまいコミュニケーションがとれない、などが挙げられます。私の子どもは、事業の関係で常に外国人と敷地内で一緒に生活をしており、外国の方に対する緊張が全くありません。海外に連れて行っても、国籍や肌の色も関係なく、普通に接することができます。小さい頃からそのような環境

にいますと、英語に対するハードルが低くなり、耳も慣れてくるため、飛行機に乗っても、自分でジュースを頼むことができます。そのような環境がないと緊張したり、自分で話しかけられなかったりすると思います。

大分県は留学生がたくさんいて、いろいろな国の人々が生活しているため、本来であれば外国の方と接する機会が多いはずですが、小・中学生の国際交流も提案していますが、カリキュラムの問題や時間が取れないなどの理由で、学校側から断られることが多いです。小さい頃から外国人に接することで、英語に対するハードルをとってあげたいと私は考えています。

高校生になった時、急に英語を話せるようになるというのは無理だと思っています。小学生の段階から英会話の勉強が始まっていますが、せっかく大分県には留学生がたくさんいるので、今は対面が難しいかもしれませんが、一緒に話ができるような機会を持ち、いろいろな国の人がいるという感覚を持たせることが必要だと思います。

また、外国の方に偏見を持たれているご高齢の方もいますが、子どもたちは「同じ地球に暮らす人」という感覚を持っています。この考え方がなければ、どんなにグローバル人材と言っても、「日本だから守られている、大丈夫」という意識がどこかであって、それぞれの国の問題に寄り添うことができません。JICA九州などのJICAの方が、学校でも指導してくださると聞いているので、そういう方々も活用して、世界で何が起きているのかをリアルタイムで教えることが本当のグローバル人材の育成だと思います。机上で話しても、本当の問題の把握は難しいので、外部の力を使った方がよいと思います。

(三浦高校教育課長)

ありがとうございます。鈴木委員のおっしゃるとおり、外部人材も含め、様々な方面の方々の力を借りながら、グローバル人材の育成を進めていきます。先ほどの映像にもありましたように、スタンフォード大学だけでなく、地元のAPU(立命館アジア太平洋大学)の学生にも協力してもらっています。対面が無理な場合は、端末を使い1対1で交流できます。対面よりも話しやすい場合もあるようです。こうした状況も踏まえながら、取組を進めていきます。

(林委員)

郷土学習について、様々な大学の先生が講義してくれているようですが、地域の人材を活用することは、とても大切だと思います。英語で話せなくても、地域の問題をグローバルに考える時に、地域の方に対する報酬が安すぎるのではないかと思います。今はどれくらい支払っていますか。大学の先生は大学から給料をもらっているかもしれませんが、ボランティアではできないと思います。良い人材がいても、報酬が安くて呼べないことがあるのではないのでしょうか。身近なことを知った上でグローバルなことに挑戦しなければ意味がないと思います。

(三浦高校教育課長)

謝金については、規定に則りながらお願いをしています。このことについては、教育委員会だけの話ではないかもしれません。現在はコロナ禍で、東京や大阪の方で大分に来ることができない講師もいますが、オンラインであれば、講演を行ってくれる講師もいます。謝金等については検討したいと思います。

(林委員)

もっと地域人材を発掘して欲しいと思います。面白い方はたくさんいます。地域の問題をSDGsやグローバルな視点で考える必要があります。先ほどの動画の中でアメリカの方の講義がでてきましたが、高校生はほとんど理解できないと思います。大分のことを知った上で比較するなどの内容がない限り、世界を知ることにはできるかもしれませんが、有効な学習になっているかどうかわかりません。

(三浦高校教育課長)

林委員のご指摘はもっともですが、私自身の経験から、地域の外の方と会話すると自分のことを聞かれます。その時に初めて、自分のこと、地域のことを知らないことに気づきます。外と触れ合うことで、自分の郷土や地域を学ぶ意欲を高めていきたいと思います。

(林委員)

その学習意欲をぜひ地域の人材とつなげてください。「大分県は何もやっていないのではないか」と思わせないように、大分県にも素晴らしい人材がいることを示してほしいと思います。

(工藤教育長)

報酬の問題は、肉付けをするのが非常に難しく、どうしても一律にせざるを得ない面もあります。「この人ならこの金額です」という客観的な基準があれば良いですが、予算での考えになると難しいです。「民間で実績を残したからこの金額で」ということができる基準がなければ、解決は難しいと思います。何かルールが検討できれば良いですが、難しいところです。

スタンフォード大学遠隔講座は30名しか募集しませんから、そこに選ばれるのも大変ですし、選ばれた30名は高い伸びを示しています。この成果を上手く使おうということで、県内でもより広くやろうというのが次のステップになります。

貴重なご意見ありがとうございました。しっかりと取組を進めていきたいと思っています。

(工藤教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開でその他、何かありますか。

では、非公開の議事を行いますので、傍聴人は退出してください。

## 【議 案】

### 第2号議案 大分県社会教育委員の委嘱について

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕入室)

(工藤教育長)

それでは、第2号議案「大分県社会教育委員の委嘱について」提案しますので、社会教育課長から説明をしてください。

(説 明)

(工藤教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議します。ご質問・ご意見はありますか。

(質問・意見)

(工藤教育長)

第2号議案の承認についてお諮りします。第2号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

第2号議案について、提案のとおり承認します。

## 【協 議】

### ① 令和4年度（令和3年度実施）教員採用選考試験実施要項（案）等について

（2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室）

（工藤教育長）

次に、協議第1号「令和4年度（令和3年度実施）教員採用選考試験実施要項（案）等について」教育人事課長から説明をしてください。

（説 明）

（工藤教育長）

ご質問・ご意見はありませんか。

（質問・意見）

（工藤教育長）

それでは、今回の説明のとおり、準備を進めていきたいと思えます。

（工藤教育長）

最後にその他、何かありますか。

それでは、これで令和3年度第2回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。